

ご参考資料

越波とは

台風接近時や吹雪の時などに、暴風や高波によって打ち寄せる波が堤防を越えて流れ込むこと。波、および波に運ばれて流入する石や流木などが道路や構造物に危害を及ぼす場合があり、道路管理上のリスク要因となりうる自然現象である。

越波の状況

下図（図1）は、2019年台風第15号（令和元年房総半島台風）の接近により発生した越波の状況である。台風第15号は8日に非常に強い勢力で伊豆諸島に接近した。その後、強い勢力で9日5時前に千葉市付近に上陸し、房総半島を中心とした各地で暴風等による甚大な被害をもたらした。

伊豆諸島付近で8mをこえる大しけ、東海地方や関東地方でも6mをこえる大しけとなり、太平洋側の沿岸部では、台風に伴う波やうねりが押し寄せた。沿岸部を走行する東名高速道路・由比地区や西湘バイパスでも越波が発生し通行規制が実施された。

越波による海水の流入による影響のほかに、道路上への土砂の堆積や流木・石の打ち上げや、越波防止柵等の設備が破損する場合があります。道路利用者の安全走行の確保など、道路管理における課題となっている。

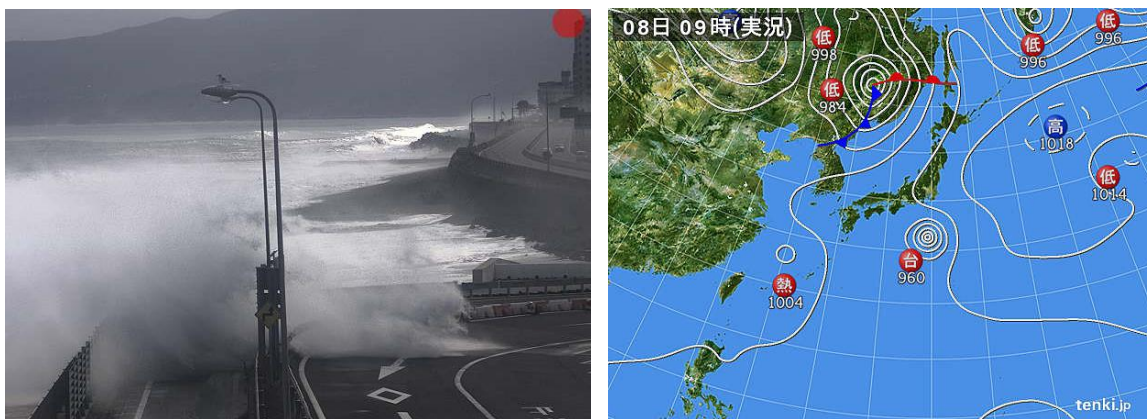


図1 越波の様子（西湘バイパス）と地上天気図（2019年9月8日）

以上